

# 熊谷市史編さん委員会・編集会議・専門部会 報告

(平成二六年一月～一二月)

## I 熊谷市史編さん委員会報告

平成二六年度第一回 熊谷市史編さん委員会

日時 平成二六年八月八日(金) 午後二時～

場所 熊谷市立商工会館 二一一会議室

### 【概要】

#### 1 報告事項

① 「別編1 民俗」の刊行について

- ・飯塚委員より、本の内容や市立熊谷図書館で行われた講座等について説明があった。

② 「資料編1 考古」の編集状況について

- ・柿沼委員より、本の概要や編集の進捗状況について説明があった。

#### 2 審議事項

① 「市史編さん大綱」の一部変更について(諮問)

- ・八月五日、教育委員会において「市史編さん大綱」の変更について諮問がなされた。理由は次の通り。

市史編さん事業は8年目を迎えるが、この間の調査・研究により、熊谷市内には手つかずの重要な歴史資料が多く存在することが明らかとなった。こうした資料についても遺漏なく調査し、市史編さん事業を遂行するためには、現実的な年次計画の変更が必要になっており、については「熊谷市史編さん大綱」の一部を変更する必要がある。

- ・「市史編さん大綱」の変更案としては、基本的な趣旨、目的、基本方針等は堅持し、刊行内容等の変更せず、発刊期間を「平成一九年から平成三八年」か

ら、「平成一九年から平成四四年」とする。

これにあわせて、年次計画や刊行計画を変更する。

・委員からは、変更することについては了承を得た。細かな年次計画等の変更については、各専門部会からも意見を集め、それを考慮した計画を再度提出することとなった。

・資料の増大にかかる収蔵スペースや、期間延長に伴う後継者の問題について、対策を取るよう意見があった。

② 「別編2 妻沼聖天山の建築編」の刊行について  
・冊数（三千冊）について、もっと多くした方がよいのではないかとの意見があった。

## II 熊谷市史編集会議報告

日時 平成二六年三月九日（日）午後二時～  
場所 熊谷市立熊谷図書館 第二講座室

### 【概要】

1 経過報告

・平成二五年度編さん委員会報告

・平成二四年度編集会議報告

3 各専門部会活動報告

4 事務局が行う基礎調査の活動状況

5 平成二六年度の計画について

6 「資料編1 考古」について

・柿沼幹夫考古専門部会長より、本の構成、体裁等について説明があり、これに対して、専門的な表現が多くなるので、考慮に入れて欲しい旨の意見があった。

7 「別編1 民俗」について

・飯塚好民俗専門部会長より、本の特徴等についての説明があった。

8 熊谷市史研究、熊谷市史報告書について

9 その他

・熊谷版の人物辞典や古典籍目録等を作成するべきではないかとの意見が出された。

（文責 蛭間 健悟）

### Ⅲ 専門部会報告

#### 一 考古専門部会

考古専門部会長 柿沼幹夫

校正の状況、「本書を利用するにあたって」の文章  
検討、カバー写真・スケッチの検討、通史編割り当て  
の確認。

平成二六年度第四回 平成二六年一月一日(土)

序文、凡例、あとがき等の確認、口絵写真の選定、  
校正の確認。

#### ○考古専門部会の開催

平成二五年度第三回 平成二六年一月一日(土)

原稿執筆状況の確認、遺跡の掲載順の検討、遺跡分  
布地図のフォーマット確認。

平成二五年度第四回 平成二六年三月八日(土)

「熊谷の遺跡概観」、各時代「概観」の原稿内容検討、  
網文の体裁確認。

平成二六年度第一回 平成二六年六月二五日(日)

語句の統一、概観の記述内容検討、校正の工程確認、  
口絵写真の選別。

平成二六年度第二回 平成二六年八月二六日(土)

原稿語句の統一、巻頭写真の検討、通史編章目立て  
の検討。

平成二六年度第三回 平成二六年九月二七日(土)

○執筆・校正  
平成二七年三月末刊行に向けて、執筆・校正作業を行っ  
た。平成二五年度末までに原稿は八割ほど集まり、二六  
年度に入ってから残りの原稿執筆と校正を並行して進めた。  
第二回目以降の会議日程に合わせて、各員が校正を進め  
てくれたので、校正作業も終了に近づいている。

#### ○通史編の章目立て

『熊谷市史』通史編上の執筆作業開始に向けて、平成  
二六年三月九日に古代、中世、考古の各専門部会長によ  
る会議が開催された。会議では、体裁・スケジュールの  
確認、章目立て等が議題となった。旧石器、縄文、弥生、  
古墳時代については、環境、気候変動、利根川・荒川、

資源利用、東アジア的視点などをコンセプトに、章目立てを検討中である。古墳時代以降については、古代、中世専門部会との連絡・調整をより緊密化したい。

## 二 古代専門部会

古代専門部会長 宮瀧 交二

古代専門部会では、平成二六年度もまた平成二八年度に予定されている『熊谷市史 通史編・上巻（原始・古代・中世）』（以下、『通史編』とする）の刊行に向けての準備作業を実施した。

年間を通して部会構成員のそれぞれが、『通史編』の刊行に向けて、当該地域の古代史に関する資料・情報収集及び、これまでに蓄積された研究成果の把握に努めた。まず本誌前号で未報告の平成二五年度分の活動を報告する。平成二六年二月二三日には、大東文化大学板橋キャンパスにおいて部会会議を開催した。群馬大学名誉教授・森田悌著『武蔵の古代史―国造・郡司と渡来人・祭祀と宗教―』についての合評会を行い、各人が担当箇所をレ

ポートし、問題点については議論を行った。

平成二六年三月二日には、部会会議及び市内視察を行った。熊谷市役所にて行われた会議では、『通史編』担当部会長会議において決定した大枠をもとに、古代担当箇所の方針等を決定した。その後、江南文化財センターにて、寺内廃寺や在家遺跡の資料を検討した。次いで、西別府祭祀遺跡（湯殿神社）、奈良神社を視察した。

平成二六年一二月三日には、大東文化大学板橋キャンパスにおいて部会会議を開催し、『通史編』の原稿執筆の第一歩である目次案の作成に着手した。今後は、平成二七年三月に考古専門部会及び中世専門部会と実施を予定している目次案の摺り合わせ調整作業を経て、確定した目次に沿って、各部会構成員が担当箇所の原稿執筆に取り組みものとしたい。

また、宮瀧は平成二七年一月二〇日、深谷市教育委員会の御協力を得て、深谷市内から出土した墨書・刻書土器、刻書紡錘車といった古代の遺跡出土文字資料の調査を実施した。（平成二七年一月末日現在）

### 三 中世専門部会

中世専門部会長 高橋 修

#### 1 専門部会会議の開催

##### ① 第一回専門部会会議

(平成二六年五月五日、市立熊谷図書館)

全体の概要やスケジュール等を確認し、古代専門部会との担当区分や、章目立て、新たに委嘱する編集委員等について審議を行った。それぞれの時代の担当は、平安時代後期―鎌倉佐保委員、鎌倉時代―部会長、南北朝・室町時代―田中大喜委員、戦国時代―齋藤慎一委員、生活・文化―浅野晴樹委員とし、章・節・見出し、執筆者等について案を作成することとした。

その後、久下、下田町遺跡、青山、村岡等の視察を行った。

##### ② 第二回専門部会会議

(平成二六年九月一五日、市立熊谷図書館)

担当の委員から提出された章・節、見出しについて検討を行い、以下のように決定した。「平安時代後期」については、平忠常の乱以降を中世の担当とするよう古

代に申し入れを行い、一部の執筆を部会長が担当する。

「鎌倉時代」については、うち二節を伊藤瑠美氏に依頼し、柴崎啓太委員、鎌倉委員が各一節を執筆する。「南北朝・室町時代」については、うち一節を清水亮氏に依頼する。「戦国時代」については、一部を築瀬大輔氏に執筆を依頼する。「生活・文化」については、一部を水口由起子氏に依頼し、栗岡眞理子委員も執筆を行う。石造物については、野口達郎委員をはじめ石造物担当の編集委員、仏像・仏画等については仏像専門部会の編集委員が担当する。このほか、市職員も執筆を行う。

なお、これを受け、平成二七年二月一日付けで、築瀬大輔氏、伊藤瑠美氏、清水亮氏の三名が熊谷市史特別調査員に委嘱された。

#### 2 石造物調査

##### ① 旧熊谷市域南東部、荒川南地域調査

七月まで、昨年に引き続き、荒川南地域(旧大里町地域、吉岡地区)等の調査を実施した。この期間に、計一二回のべ八一人にて調査を行い、板碑、五輪塔、宝篋印塔など二七六点を確認した。このうち、今回の調査で新たに

確認できたものは一七六点を数え、全体の六三％に及んだ。逆に確認できなくなったものが一七点あった。

②中世石造物調査会議

(平成二六年七月二〇日、吉岡公民館)

中世石造物調査会議を開き、昨年度の調査結果を報告し、本年度以降の調査計画を確認した。また、報告書についての検討を行い、体裁や分担等について審議を行った。

③未調査地点調査

同九月以降、過去六年間の調査において、調査が終了していない地点の調査を行っている。平成二七年度にはすべての一次調査を終える予定である。

四 近世専門部会

近世専門部会長 北村 行遠

近世専門部会では、平成二六年の主な活動として、平成二五年度第三回部会、平成二六年度第一回部会、第二回部会を開催した。平成二六年度はあと一回の部会を予

定している。また、昨年度に引き続き二六年も古文書所在確認調査をおこなった。以下、部会の活動内容について略述する。

平成二五年度第三回近世部会(平成二六年三月七日)

・古文書調査について

編さん室より古文書の所在確認・調査状況の報告があり、調査終了の文書群として、東別府の田村五郎家文書をはじめ九件の説明があった。つづいて現在調査中の文書群について、平塚新田の山下一夫家文書をはじめ二七件の報告をうけた。昨年度以前の調査継続中の古文書も多いが、専門部会の要望に応えつつ調査をおこなっている。新たに受け入れをした文書群として、妻沼台の田部井一郎家文書ほか三件と、古書店から購入した古文書の説明があった。

・資料編の進捗状況について

資料編(三冊)の構成について検討がなされ、担当者によって目次案が提出された。今後とも古文書調査の進捗状況と合わせて、より具体的な構成案を提示する方向で作業を進めることとなった。

## ・古文書所在確認調査について

昨年度に引き続き、三月二一日（金・祝）・二二日（土）の二日間で市内の古文書所在確認調査をおこなうことが提案され、部会にて了承された。また、遠隔地の調査として、市内で活躍した近江商人の動向を調査することが提案され、次回の部会までに調査先を具体的に検討することとなった。

## 平成二六年度第一回近世部会（平成二六年七月一八日）

## ・古文書調査について

編さん室より古文書の所在確認・調査状況の報告があり、調査終了の文書群として、代の代島久輝家文書はじめ五件の説明があった。つづいて現在調査中の文書群について、平塚新田の山下一夫家文書をはじめ二七件の報告をうけた。昨年度以前の調査継続中の古文書も多いが、専門部会の要望に応えつつ調査をおこなっている。新たに受け入れをした文書群として、妻沼の小池仁家文書ほか四件と、購入した古文書の説明があった。

## ・資料編の進捗状況について

資料編（三冊）の構成について検討がなされ、担当者によって、それぞれの進捗状況の説明があったが、近世

前期の忍藩領や、妻沼陣屋さらには陣屋支配に関わる幕政全般などの調査の必要性が議論され、より具体的な構成案を提示する方向で調査・作業を進めることとなった。

## ・古文書所在確認調査について

平成二六年三月二一日・二二日におこなわれた古文書所在確認調査の結果報告がなされた。石原・妻沼・三ヶ尻・久下などの地域で調査をおこない、新たに古文書や絵図の確認がとれた場所もあったが、県史や旧熊谷市史、旧妻沼町誌などですでに古文書の所在が判明している場所にも再調査をおこなった際に、古文書が散逸してしまったり所蔵者もいくつかみられた。かつておこなわれた調査に際して自宅で保管したままの所蔵者については、市史編さんの状況に応じて、保存状況も含めて改めて調査する必要性の提案がなされた。

ほかに遠隔地の調査計画として、近江商人関係で滋賀大学経済学部附属史料館（彦根市）と酒造および吉田市右衛門家関係で関西学院大学図書館（神戸市）への調査が提案され、その旨了承された。

## 平成二六年度第二回近世部会（平成二六年二月一四日）

## ・古文書調査について

編さん室より古文書の所在確認・調査状況の報告があり、調査終了の文書群として、妻沼の小池瑞枝家文書、弥藤吾の小暮千吉家文書の説明があった。つづいて現在調査中の文書群について、平塚新田の山下一夫家文書をはじめ三〇件の報告をうけた。調査継続中の古文書も多いが、随時調査をおこなっている旨の報告がなされた。新たに受け入れをした文書群として、弥藤吾の大山雄三氏収集文書や編さん室が購入した古文書など九件の説明があった。

・資料編の進捗状況について

担当者によって、それぞれの進捗状況の報告があったが、妻沼については、歓喜院文書の調査報告について、熊谷宿については、中山道沿いの本陣関係文書の所在および研究状況などの説明があった。より具体的な構成案を提示する方向で調査を進めることとなった。

・古文書所在確認調査について

例年おこなわれていた古文書所在確認調査であるが、専門調査員のスケジュールやこれまでに所在の確認がなされた古文書の整理を含めた調査状況なども鑑み、今年度はおこなわない旨が了承された。ただし、十分に所在

確認がなされていない地域もあるので、今後とも必要に応じて調査をおこなうこととなった。また、来年度の遠隔地の調査に忍領関係で常磐歴史史料館、酒造関係で新潟地域の史料調査が提案された。

・市史編さん年次計画などの変更について

「熊谷市史編さん大綱」の一部変更にとまない、資料編・通史編の調査期間および刊行時期の変更がなされることとなり、資料編は平成三二年、同三五年、三八年、通史編は同四一年の刊行に変更され、それぞれについて部会において了承された。

五 近代専門部会

近代専門部長 村田 安穂

1 平成二五年度近代・現代専門部会合同会議

(平成二六年二月一日、商工会館)

まず、各部会の資料編目次案進捗状況を報告しあい情報共有を図った。次に事務局から活動報告をうけた後、資料編体裁について協議した。現代専門部会から資料編



(旧妻沼地域) 刊行の経緯や戦後資料の不足などの説明があり、審議の結果、下記の案で同意を得た。資料編(旧妻沼地域・一冊)は一冊の中で近代と現代に分けて総説・章節を組み立てること。解説について現代専門部会では資料不足を補うため叙述をして、各部会の方針で執筆を行う。資料編(旧熊谷地域・二冊)は近代、現代で巻を分けるのではなく、資料数を勘案して巻を分けることとする。章節の上に部を作成してパートごとに解説を付ける。協議すべき事項が生じた場合は、再度合同部会を開くこととした。

## 2 平成二六年度第一回近代専門部会

(平成二六年八月三十一日、熊谷市立熊谷図書館)

事務局より市史編さん委員会で諮問した内容の検討を打診され近代専門部会で協議を行った。近代専門部会としては、通史編刊行までに委員の引き継ぎを考慮する必要等を提案した。また、近代専門部会でも吉田市右衛門記録のような史料集を出したいとの意見を得た。資料編目次の執筆分担については、事務局にて執筆担当を記入したものを提出するよう指示し、それを

もとに協議していくこととした。最後に事務局より活動報告を受け、妻沼小池家文書を中心とした文書群の調査を部会全員で実施することが了承された。なお、午前中は希望者による熊谷市立熊谷図書館所蔵文書調査を実施した。

### ・資料調査の実施

(平成二六年十一月三〇日、妻沼展示館)

妻沼展示館に収蔵・借用している文書群の調査を実施した。委員それぞれの担当分野に関わる文書・新聞などを閲覧し、必要に応じて事務局に写真データの提供を依頼した。また、事務局より提案のあった市指定文化財の元素楼関係文書を史料集として刊行することについて審議を行い、了承した。最後に次回の近代専門部会会議日を決定(平成二七年三月一五日)して、午前中は希望者による妻沼展示館での資料調査とした。

## 六 現代専門部会

現代専門部会長代理 高橋 信之

(平成二六年七月六日、妻沼展示館)

### 1 平成二五年度近代・現代専門部会合同会議

(平成二六年二月二一日、商工会館)

各部会から資料編目次案の検討・資料調査の進捗状況を報告しあい情報共有を図った。次に事務局の活動報告をうけた後、資料編体裁について協議した。現代専門部会からは資料編(妻沼編)刊行の経緯や戦後資料の不足などが指摘され、審議の結果、次の案で同意を得た。資料編(旧妻沼地域)は一冊の中で近代と現代に分けて総説・章節を組み立てる。解説について現代専門部会では資料不足を補うための叙述を配慮した上で、各部会の方針で執筆を行う。資料編(旧熊谷地域・二冊)は近代、現代で巻を分けるのではなく、資料数を勘案して巻を分けることとする。章節の上に部を作成してパートごとに解説を付ける。なお、協議事項は各部会で検討し再度合同部会を開くこととした。

### 2 平成二六年度第一回現代専門部会

各委員の活動状況を報告しあい、産業関係では熊谷商工会議所資料調査、教育関係では小・中学校調査、社会・労働では新聞・社史・刊行物を中心に調査を行っていることを報告、その成果を共有した。今後の調査は旧熊谷町役場文書や本庁にある永年保存文書調査を視野にいれつつも、資料編(旧妻沼地域・一冊)が先なので、引き続き妻沼地区の企業、団体調査が優先事項であるとの共通理解を得た。最後に事務局より活動報告をうけた。なお、午前中は市史編さん室にある文書類の資料調査を実施した。

### 3 平成二六年度第二回現代専門部会

(平成二六年二月二六日、妻沼展示館)

事務局より市史編さん委員会に諮問した内容について意見を求められ、現代専門部会で協議を行った。現代専門部会としての意見は、通史編刊行まで考慮すると委員の引き継ぎと、掲載する現代の下限について考慮する必要があるのではないかとする等の意見が出た。次に事務局活動報告を受けた後、各委員の活動状況を報告しあい、

共有化を図った。中でもくまがや農協調査、妻沼青果市場調査、学校調査の成果を共有して、今後も農協、企業調査を行っていくこととした。なお、午前中は市史編さん室にある文書類の資料調査を実施した。

## 七 民俗専門部会

民俗専門部会長 飯塚 好

### 一 平成二五年度第五回民俗専門部会

日時 平成二六年二月一日(日) 午後一時三〇分～

場所 妻沼展示館

民俗編校正稿の確認、挿図・挿入写真の編集作業を行う。伝説等に係る挿画を採用する。

校正終了後、印刷までの間、校正確認を執筆者ごとに対応することで実施し、最終確認を部会長の判断で進めた。予定通り、三月中の刊行をみた。

### 二 平成二六年度一回民俗専門部会

日時 平成二六年六月二二日(日) 午後一時三〇分～

場所 熊谷図書館

民俗編刊行後、配本状況の確認や協力者等への配布について説明。本編の刊行を持って部会活動は停止となる。補足等の必要に際し市史研究等に対応を想定するなど説明、了承された。

なお、民俗報告書(映像版)の作成について、部会長とその研究を進めていくことで了承される。

### 八 妻沼聖天山の建築専門部会

妻沼聖天山の建築専門部会長 大河 直躬

#### 1 第三回歴史部門担当者会議

(平成二六年二月二一日)

石山秀和専門調査員・細野健太郎専門調査員が立正大学熊谷キャンパスにて会議を行った。史料編に掲載予定である文書の筆耕作業などの進捗状況を確認した。また執筆分担を決定し、一部内容を細部に踏み込んで調整した。最後に今後のスケジュールを確認した。

## 2 平成二五年度第二回専門部会会議

(平成二六年三月一八日)

立正大学品川キャンパスにて会議を行った。各委員より今年度の活動報告があり、調査や作業などの進捗状況の確認をした。次に、本の体裁・章立て等の確認・検討について議論した。章立てと内容では、貴惣門の取り扱いが問題となり、引き続き検討していくこととなった。また写真は、聖天堂絵図など大判の扱い、カラー口絵、巻末の白黒写真、各ページの説明写真なども検討した。最後に、平成二六年度の活動計画について確認した。

## 3 平成二六年度第一回専門部会会議

(平成二六年六月二三日)

立正大学品川キャンパスにて会議を行った。各委員から活動報告があり、章立てや史料翻刻の状況を確認した。続いて、章節立てを検討し、各執筆者の記載内容を確認するとともに、分担した執筆者間での調整をはかった。さらに、レイアウト・体裁などについて議論した。ページ割は、本全体の頁数が五〇〇頁くらいを計画し、本文一六〇～二〇〇頁、写真・図版(カラー)一〇〇～

一四〇頁、史料集(分冊)一六〇～二〇〇頁で、本文は五章立てで一章平均三〇頁と計画した。

## 4 平成二六年度第二回専門部会会議

(平成二六年二月一三日)

立正大学品川キャンパスにて会議を行った。各委員からの進捗状況の報告があり、掲載史料の翻刻がある程度終了したこと、執筆や図版の選定などの作業状況を確認した。次に、本の体裁などについて議論し、本文や史料集の文字組みを検討し、本の体裁は、本文・写真・図版がハードカバークロスで、別冊の史料集が簡易製本で、箱入りにする案で確認した。続いて、各章ごとに内容を検討し、執筆者間の調整をはかり、写真・図版について確認した。

## 九 仏像調査専門部会

仏像調査専門部長 林 宏一

平成二四年より調査を開始し、平成二六年は三年目と

なる。今年は妻沼地域及び旧熊谷市域北部を中心に調査を行った。月に一回、一日二か寺のペースで調査を行い、合計九日間、一七の寺院と御堂を訪問した。

調査内容は、写真撮影及び寸法や形状・材質等を記した調査カードの作成である。一年間で約二七〇点の仏像等の調査を終えることができた。なお、調査カードと写真の整理は西口由子委員、各寺院との交渉は坂東隆秀委員が行った。

平成二六年に実施した調査は以下の通りである。

- 1 弥藤吾観清寺 (三月一七日)
- 2 弥藤吾福寿院 (三月一七日)
- 3 市ノ坪無量寺 (四月一四日)
- 4 道ヶ谷戸宝珠院 (五月一九日)
- 5 妻沼瑞林寺 (五月一九日)
- 6 妻沼花藏院 (六月一八日)
- 7 上之龍淵寺 (六月一八日)
- 8 大塚龍昌寺 (於 龍淵寺) (六月一八日)
- 9 中奈良長慶寺 (七月三〇日)
- 10 西城長慶寺 (七月三〇日)

- 11 三ヶ尻龍泉寺 (九月一六日)
- 12 東別府香林寺 (本堂) (九月一六日)
- 13 奈良新田西福寺 (一〇月三一日)
- 14 東別府香林寺 (観音堂) (一〇月三一日)
- 15 三ヶ尻幸安寺 (十一月二日)
- 16 拾六間徳藏寺 (十一月二日)
- 17 下増田観音寺 (十二月一日)

また、現在、妻沼聖天山貴惣門の多聞天が修復中であり、十一月一日に部会長が視察・調査を行った。

なお、就職等により数名の協力員が辞任したため、今年度より、増田政史氏を新たに協力員に委嘱した。

最後に、調査先寺院関係各位の多大なる御協力に対して、厚くお礼申し上げます。